

第29期 決算公告

2018年6月20日

鳥取市千代水1丁目32番地2
日本電産マシナリー株式会社
代表取締役社長 前田 進一郎

貸借対照表(2018年3月31日現在)

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
I 流動資産	1,983	I 流動負債	1,387
現金及び預金	397	買掛金	442
売掛金	1,169	電子記録債務	97
電子記録債権	36	未払金	696
商品及び製品	29	未払費用	57
材料及び部品	62	リース債務	1
仕掛品	30	未払法人税等	1
貯蔵品	12	預り金	8
前払費用	9	賞与引当金	51
未収入金	166	製品保証引当金	34
繰延税金資産	51	その他	0
その他	29	II 固定負債	101
貸倒引当金	△7	リース債務	42
II 固定資産	1,940	退職給付引当金	13
有形固定資産	501	繰延税金負債	2
建物	157	その他の固定負債	44
構築物	1	負債の部合計	1,488
機械装置	8	(純資産の部)	
車両運搬具	0	I 株主資本	2,436
工具器具備品	5	資本金	100
土地	330	資本剰余金	35
無形固定資産	53	資本準備金	35
ソフトウェア	8	利益剰余金	2,301
その他	5	利益準備金	25
ソフトウェア仮勘定	40	その他利益剰余金	2,276
投資その他の資産	1,386	固定資産圧縮積立金	7
投資有価証券	1,216	土地圧縮積立金	11
出資金	6	別途積立金	2,425
関係会社出資金	160	繰越利益剰余金	△167
その他	3	純資産の部合計	2,436
資産合計	3,923	負債及び純資産合計	3,923

個別注記表

I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式・・・移動平均法に基づく原価法

その他有価証券

時価のあるもの・・・・・・・・・・決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理)

時価のないもの・・・・・・・・・・移動平均法に基づく原価法

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品及び製品、材料及び部品、仕掛品・・・総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しています。

貯蔵品・・・・・・・・・・最終仕入原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 7年～38年

機械装置及び車両運搬具 5年～12年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（主に5年）に基づく定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等合理的な基準により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込み額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

(4) 製品保証引当金

販売した製品の無償補修に対する費用の支出に充てるため、過去の実績率を基礎として、発生見込額を計上しております。

4. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方法によっております。

II. 当期純損失金額 183 百万円